

2021年卒
Vol. 11

10月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2021 学生モニター調査結果 (2020年10月発行)

正式内定解禁(10月1日)を迎え、内定状況はどのように変化しただろうか。キャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は88.6%と高水準ながらも、9割超だった前年同期実績には届かなかった。また、10月は例年、就職活動費用を調査しているが、今年はコロナ禍で急速にオンライン化が進んだことにより、大幅に減少したことがわかった。

(2021年卒・定期調査 最終回)

1. 10月1日現在の内定状況

- 内定率は88.6%。8月調査(83.7%)から2カ月間の伸びは4.9ポイント
- 前年同期実績(90.5%)を1.9ポイント下回る
- 就職活動終了者は全体の85.2%。継続者は14.8%で、前年(11.8%)を3ポイント上回る

2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

- 「就職先が決まるまで就職活動を続ける」58.7%。前年調査(56.1%)より増加

3. 中小企業への選考応募状況

- 中小企業の「面接試験を受けた」経験をもつ学生は57.0%。平均社数は2.6社
- 中小企業を受けた理由は「会社の雰囲気がい」43.2%、「やりたい仕事に就ける」40.4%
- 受けていない理由は「給与・待遇が良くない」45.4%、「安定性に欠ける」44.1%

4. 内定後のフォローと内定者研修

- 対面での内定後フォローを受けた学生は2割弱。オンラインでのフォローは6割
- 企業に望むペースは「1カ月に1回程度」が最多。例年より高頻度のフォローを希望
- 内定期間中の研修や課題には6割強が賛成の意向。「eラーニング」が人気

5. 就職活動の費用

- 平均97,535円。前年(136,867円)より約4万円減で、初めて10万円を切った
- 総額が最も高いのは「中国・四国」(154,286円)、最も低いのは「関東」(78,356円)

6. 就職活動で大変だったこと

- 1位「エントリーシート」、2位「自己分析」。「就活費用のやりくり」は大幅減

調査概要

- 調査対象 : 2021年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
 回答者数 : 1,133人(文系男子334人、文系女子339人、理系男子326人、理系女子134人)
 調査方法 : インターネット調査法
 調査期間 : 2020年10月1日~6日
 サンプルング : キャリタス就活2021学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. 10月1日現在の内定状況

10月1日現在の学生モニターの内定率は88.6%。前回調査(8月1日時点)の83.7%から4.9ポイント伸びたが、9割超だった前年実績(90.5%)には届かなかった。今期を振り返ると、序盤は前年同期を上回る内定率をマークし早期化が目立っていたが、4月上旬に緊急事態宣言が出されると、採用活動を一時中断する企業が相次ぎ、ペースが鈍化。5月以降は前年実績を下回る状態が続いてきた。7月以降、前年との差が徐々に縮まり、正式内定解禁の10月時点では前年比1.9ポイント減に落ち着いた。

調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は83.3%(グラフは次ページに掲載)。複数内定を保留しているなど未決定である者(1.9%)を合わせると活動終了者は85.2%となる。就活継続者は全体の14.8%で、前年(11.8%)より3ポイント多い。継続者は文系で15.4%、理系で13.7%。

<10月1日現在の内定状況>

*「内定」には、内々定を含む

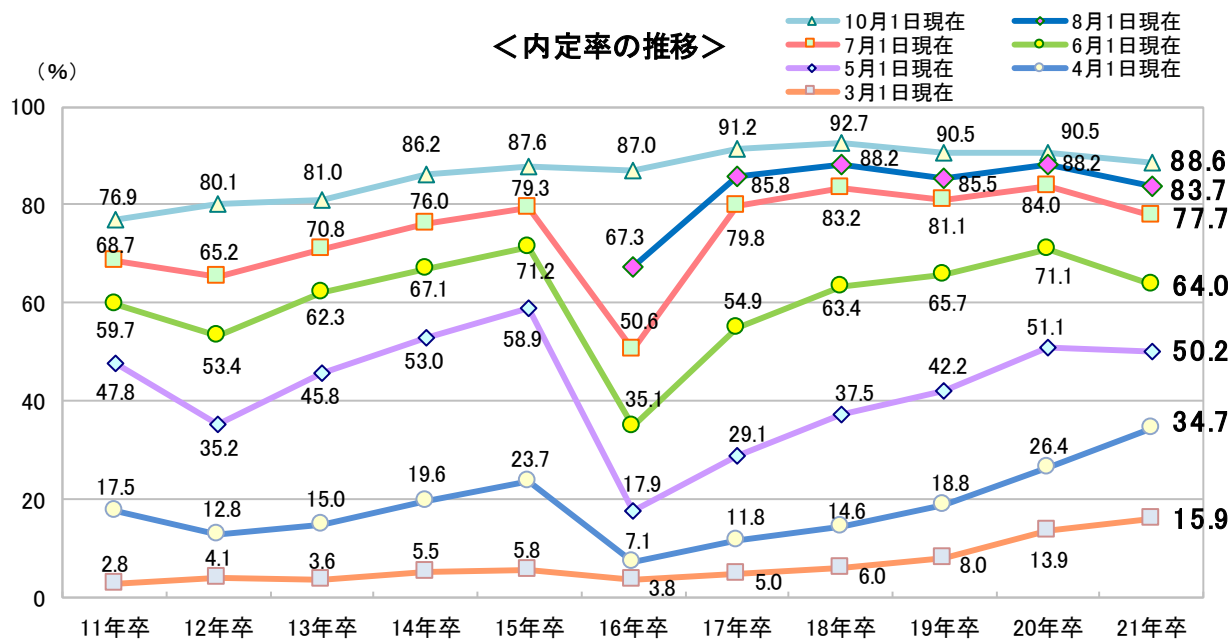
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		88.6 (90.5)	87.4 (87.2)	89.7 (93.6)	89.6 (87.5)	86.6 (97.9)
内定なし		11.4 (9.5)	12.6 (12.8)	10.3 (6.4)	10.4 (12.5)	13.4 (2.1)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	94.0 (95.3)	93.2 (93.8)	93.1 (97.1)	95.5 (95.5)	94.8 (94.3)
	活動は終了したが複数内定保持	1.5 (1.0)	1.7 (1.6)	2.0 (0.6)	1.0 (1.1)	0.9 (0.0)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.7 (1.2)	0.3 (1.0)	0.7 (0.3)	1.4 (1.9)	0.0 (2.1)
	就職活動継続	3.8 (2.5)	4.8 (3.6)	4.3 (1.9)	2.1 (1.5)	4.3 (3.6)

(%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.1 (2.3)	2.2 (2.3)	2.1 (2.4)	2.1 (2.1)	2.0 (2.1)

(社)

※ () 内は前年(10月1日現在)の数値

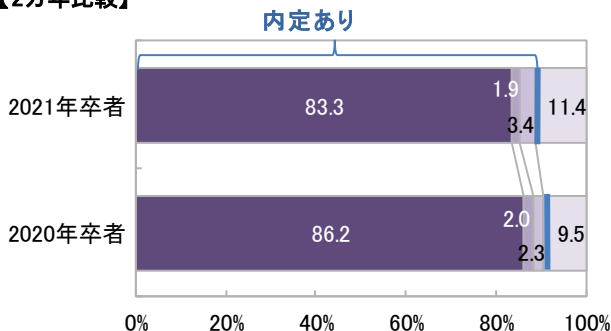


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~21卒は6月 ※15年卒以前は8月のデータはなし

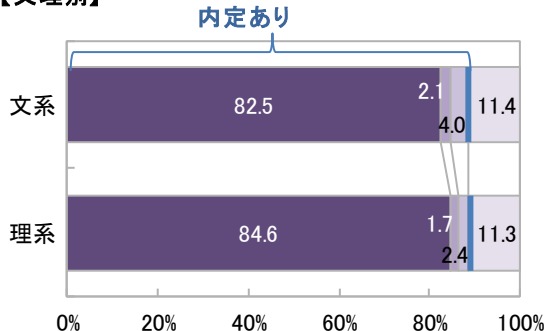
<活動状況の分布>

■活動終了<就職先決定> ■活動終了<就職先未決定> ■活動継続<内定あり> ■活動継続<内定なし>

【2カ年比較】



【文理別】



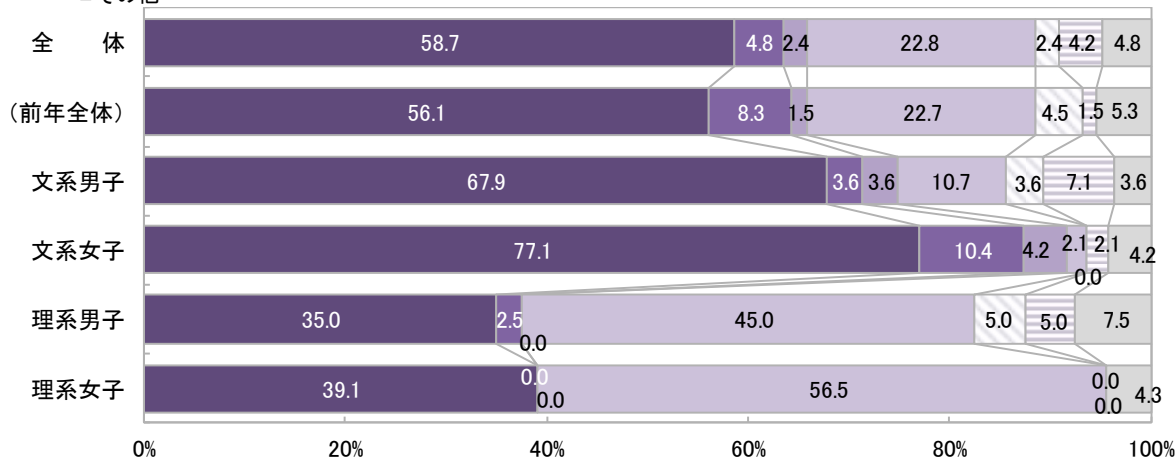
2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

10月1日時点で就職先が決まっていない学生（モニター全体の14.8%）に、今後の予定を尋ねた。

「就職先が決まるまで就職活動を続ける」という回答が今年も最も多く、前年より割合がやや増えた（56.1%→58.7%）。採用活動の一時中断などで企業の選考時期が遅くなったことで、長期戦で取り組む学生が増えているのだろう。一方で、就職以外の進路を考えている者も少なくない。「大学院に進学する」が全体の2割を超え（22.8%）、より専門的な学問を修得してから就職したいと考える層も一定数みられる。とりわけ理系学生において顕著で、理系女子では過半数に達する（56.5%）。なお、「就職先が決まるまで就職活動を続ける」という回答は文系女子において高く、77.1%と7割を超える。

<就職先が決まっていない学生の今後の予定>

■就職先が決まるまで就職活動を続ける
 ■卒業して就職活動をやり直す(就職浪人を決めた)
 ■留年して就職活動をやり直す(就職留年を決めた)
 ■大学院に進学する(修士/博士課程)
 ■海外に留学する
 ■卒業して非正規雇用で働く(派遣、アルバイトなど)
 ■その他



■進路未決定学生の声

○まだ選考中の企業もあるため、就職先が決まるまで就活を続ける。

<文系男子>

○就職浪人しても、来年の方が良くなる保障はない。

<文系女子>

○コロナで就活がまともにできなかったし、深く学びたい研究があるから大学院に進学する。

<文系男子>

○大学院で研究経験を得てから、就活に再度リベンジしたい。

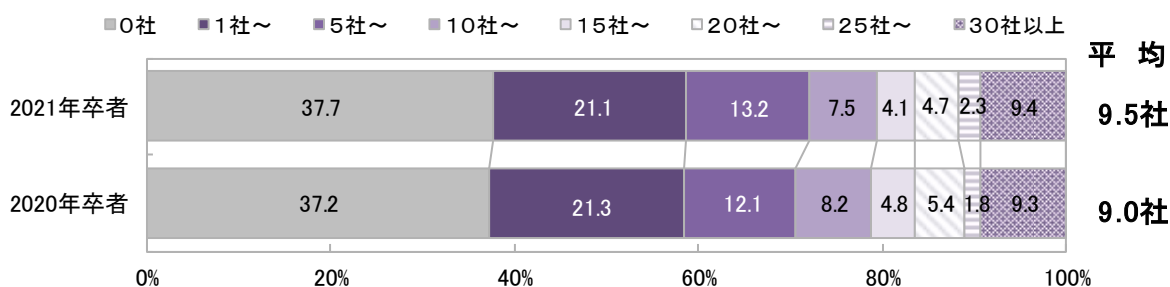
<理系女子>

3. 中小企業への選考応募状況

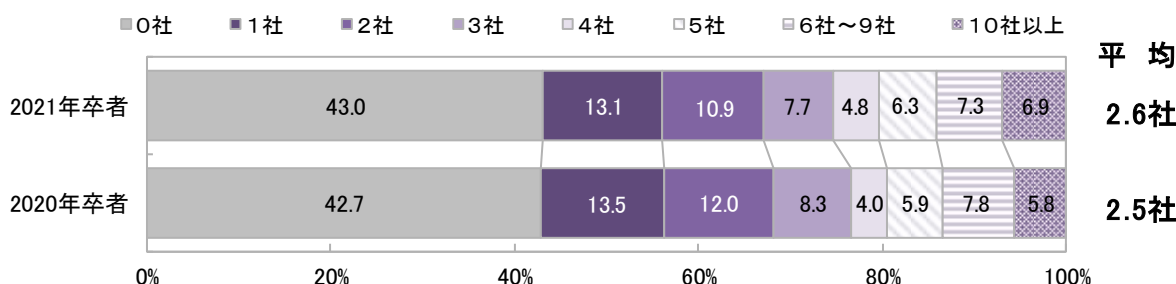
全員を対象に、従業員 300 人未満の中小企業への応募について尋ねた。「中小企業にエントリーしていない (=0 社)」という学生は全体の 37.7%で、残りの 6 割以上がエントリー経験を持つ (62.3%)。エントリー社数の平均は 9.5 社。また、「中小企業の面接試験を受けていない (=0 社)」は 43.0%で、実際に中小企業の面接を受けた学生は半数強 (57.0%)。受験社数は平均 2.6 社。コロナ禍で様々な変化が生じた中で、中小企業への応募に大きな変化はなかった。

中小企業を受けた理由を見ると、「会社の雰囲気がよい」(43.2%)、「やりたい仕事に就ける」(40.4%)などが上位に挙がっている。社風や仕事内容をアピールすることが学生を惹きつける鍵となっていることがうかがえる。

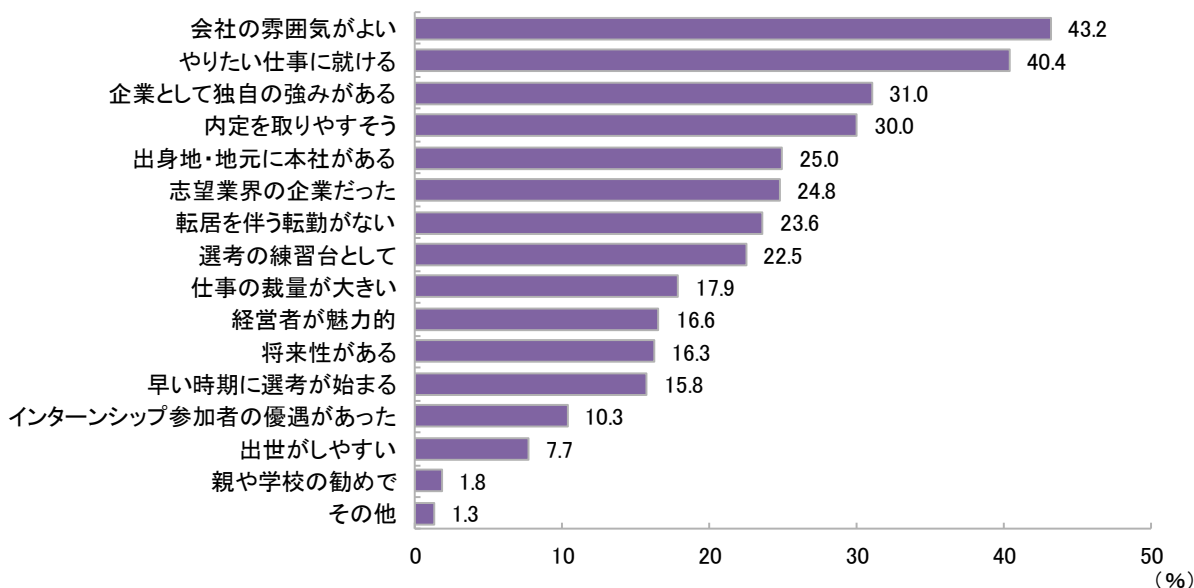
＜中小企業のエントリー社数の内訳＞



＜中小企業の面接受験社数の内訳＞



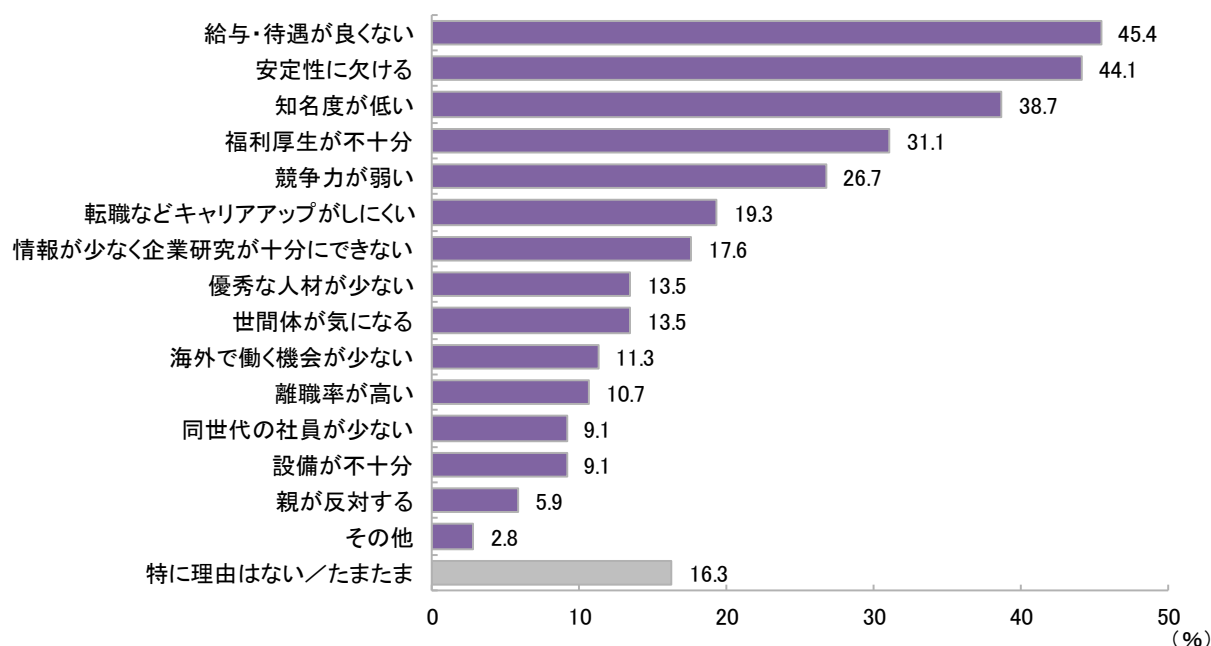
＜中小企業を受けた理由＞



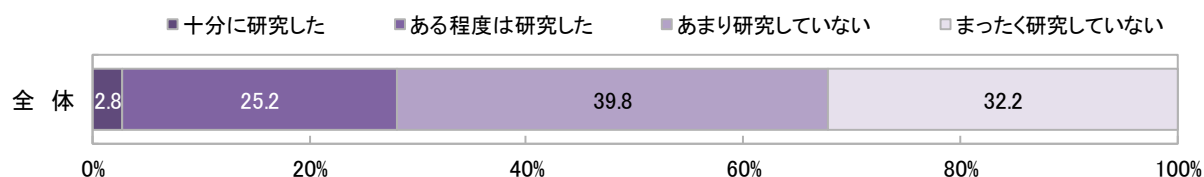
一方、中小企業を受けていない学生 (モニター全体の43.0%) に対し、その理由を尋ねてみた。「給与・待遇が良くない」(45.4%)、「安定性に欠ける」(44.1%)、「知名度が低い」(38.7%)、「福利厚生が不十分」(31.1%) までが3割を超えており、条件面での懸念が中心であることがわかる。

ただ、中小企業について「まったく研究していない」(32.2%)、「あまり研究していない」(39.8%) を合わせて約7割 (計72.0%) に上り、企業研究をすることなく、思い込みから敬遠している学生も少なくないことがえる。中小企業を受けた学生からのコメントを見ても、選考時の対応は大手より高く評価するものの、それ以前に「発見しづらい」「情報が少ない」という声も多い。自社の強みや魅力をしっかり発信することが大切ということだろう。

＜中小企業を受けていない理由＞



＜中小企業の企業研究の有無＞



※ 中小企業の面接を受けなかった者が回答

■ 中小企業を受けた印象

○ 社員との距離感も近くて、細かく説明もしてくれて非常に良かった。社長や役員クラスにも会えることも魅力。

＜文系男子＞

○ 大手企業とは異なり、仕事の裁量が多い印象を受けました。若いうちから様々な経験を積めることは中小企業の魅力だと思います。

＜文系女子＞

○ 大きくなくても、社会に貢献する人材を育てている会社だと感じた。もっと各大学に案内をしてもいいと思った。

＜理系男子＞

○ 個別に日程調整を行って選考をしてもらえる所が良い。面接も、集団は一切なく、きちんと私自身のみ注力して判断してもらっていると感じた。募集広告が少ないのは難点。

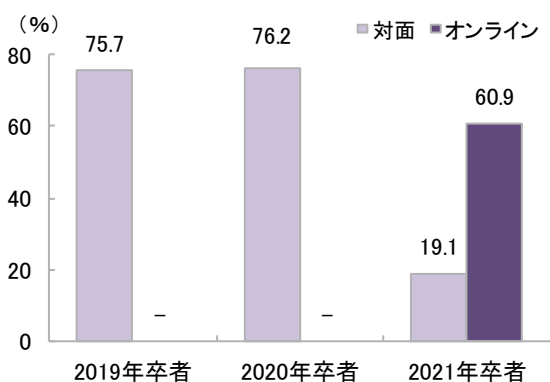
＜理系女子＞

4. 内定後のフォローと内定者研修

就職活動を終了した学生に、内定後のフォローや研修について尋ねた。まず、内定式より前の内定者集合の経験を形式別に尋ねたところ、対面が約 2 割 (19.1%) に対し、オンラインは 6 割に上った (60.9%)。内定式の形式も「オンラインのみ」(66.8%)、「リアルとオンラインの併用」(10.5%)を合わせて8割近くがオンラインでの実施であり、内定後の接点もオンライン中心であることがわかる。

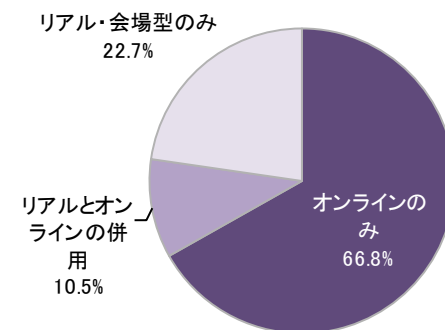
次に、企業にどのくらいのペースでフォローしてもらいたいと思っているのかを尋ねた。最も多かったのは「1カ月に1回程度(毎月)」で44.6%。次いで「2カ月に1回程度(隔月)」(22.1%)が続く。前年同期調査と比較すると、「1カ月に1回程度」が約15ポイント増加するなど、全体的に高い頻度のフォローを希望する割合が増加している。

＜内定者集合の経験＞



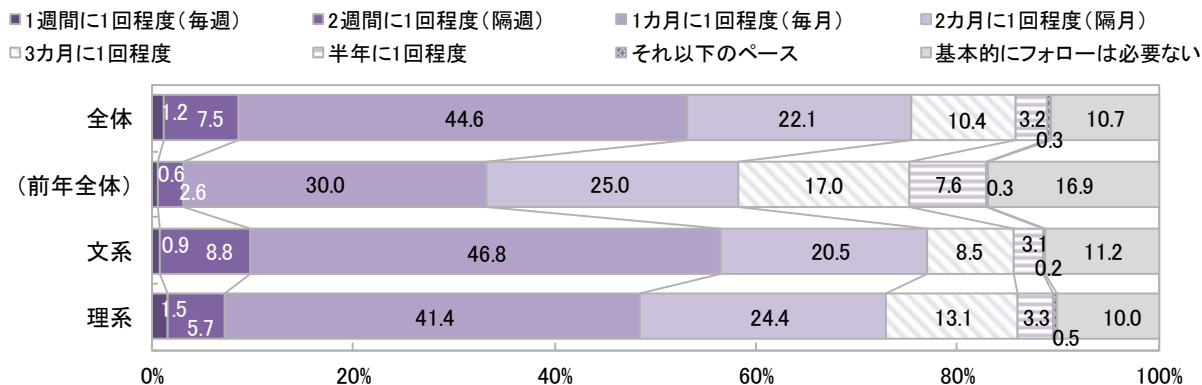
※「オンライン」は前年、前々年調査なし

＜内定式の実施形式＞



※内定式に参加した者が回答

＜企業に希望する内定後フォローのペース＞



■内定式に参加した感想

【リアル・会場型で実施】

- 内定式で同期と初めて顔を合わせられ満足した。会社の雰囲気もつかむことができてよかった。 <理系男子>
- いよいよ数カ月後に社会人になるという実感がわき、高揚感があった。 <文系男子>
- 懇親会等がなく、つまらなかった。 <文系男子>

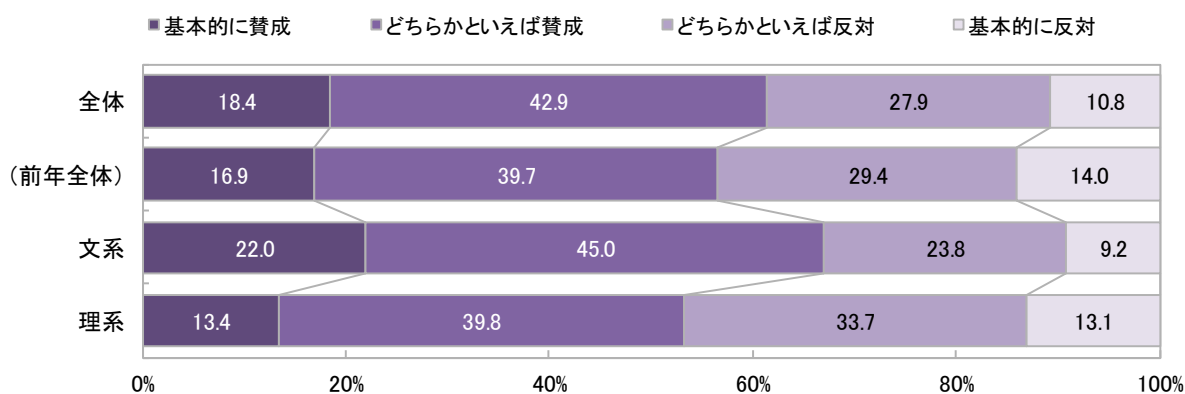
【オンラインで実施】

- オンラインでなかなか難しい部分もあったが、存分に楽しめた。入社後の働く意欲が高まった。 <文系男子>
- 1人1分程度で抱負を述べたのが面白かった。同期と親睦を深めるきっかけになる内定式だった。 <理系男子>
- スーツで企業まで行く手間もなく、簡潔に進んだので、WEBの方がいいと感じた。 <理系女子>
- 9時間のオンラインで疲れがすごく、集中力が持たなかった。 <文系女子>

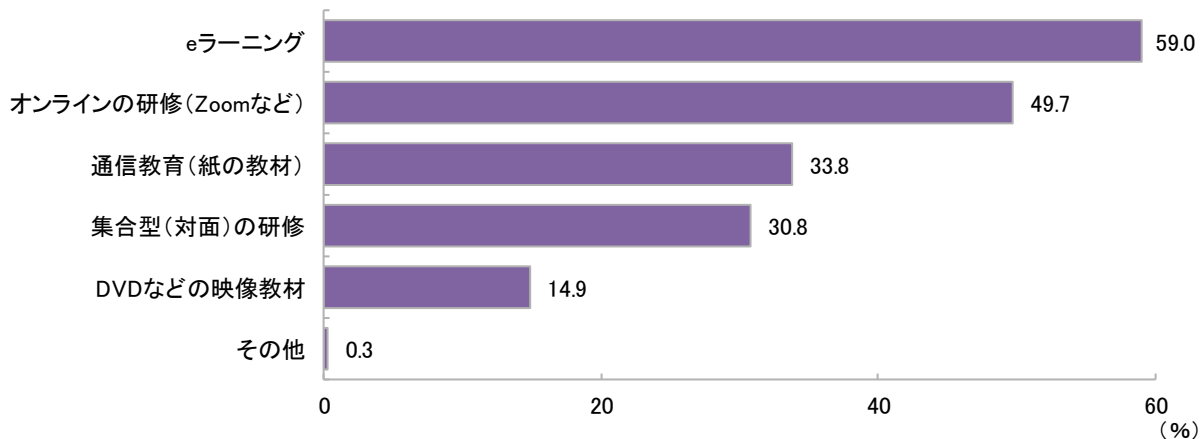
内定期間中の研修や課題が出ることについての考えを尋ねたところ、「基本的に賛成」(18.4%)と「どちらかといえば賛成」(42.9%)を合わせ6割強が賛成との意向を示した(計61.3%)。語学の学習や資格取得など、自己啓発へのサポートを企業に望む学生は少なくないようだ。文系学生では賛成が合わせて67.0%と、理系学生(計53.2%)に比べて高く、文系学生の方が内定期間中の研修・課題に肯定的だ。

なお、研修や課題の望ましい形式を尋ねたところ、「eラーニング」が最も多く、約6割(59.0%)が選んだ。次いで「オンラインの研修(Zoomなど)」(49.7%)が続き、「集合型(対面)の研修」(30.8%)を大きく上回る。いずれにしても、学生の負担にならないよう、それぞれの状況を踏まえた対応を心掛けたい。

＜内定期間中に研修や課題が出ることへの考え＞



＜内定期間中の研修や課題で望ましいと思う形式＞



■就職決定企業について、入社するまでにもっと知りたい情報

- 入社後半年～1年くらいの研修や配属の流れ。 ＜文系男子＞
- より詳しい業務内容が知りたい。まだ社内の見学ができていないため、入社後イメージしづらいと感じている。 ＜文系女子＞
- コロナ禍ということもあり、同期とのコミュニケーションを多くは取れていないため、みんながどのような考えを持っているかなど知りたい。 ＜理系女子＞
- 研修後の配属の決め方、社宅や家賃補助、交通費補助についてなど、福利厚生面の。 ＜文系女子＞
- 今年度の会社や配属予定部署の状況。コロナ禍で先行きが不透明な現在は特に、知りたいと思っている。 ＜理系男子＞

5. 就職活動の費用

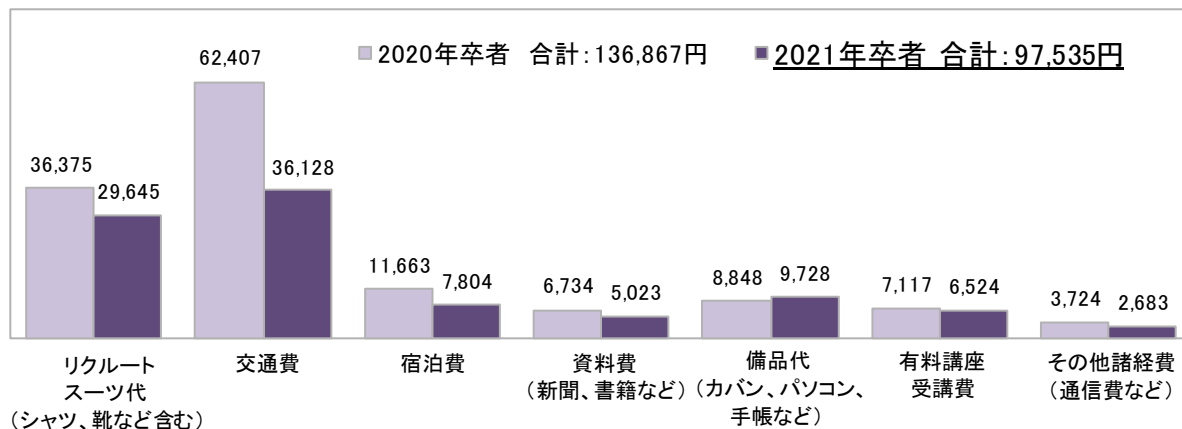
モニター学生全員に、就職活動にかかった費用について、「リクルートスーツ代」「交通費」「宿泊費」「資料費」「備品代」「有料講座受講費」「その他諸経費」の7つの項目ごとに金額を尋ねた。各項目の平均を算出し足し上げると97,535円となり、前年調査(136,867円)より大幅に減少した。平均額が10万円を切るのは、2009年(2010年卒)に就活費用を調査し始めてから初めてのことだ(就活費用の推移は次ページにグラフ掲載)。

項目ごとに見ると、就活費用のうち最も多くを占める交通費が6万円台から3万円台へと大きく減少し(62,407円→36,128円)、全体額を押し下げたことがわかる。宿泊費も減少しており、オンライン化が急速に進んだことで、移動に伴う費用は一気に縮小した。また、リクルートスーツ代も減少しているが(36,375円→29,645円)、企業を訪問する機会が減ったことで、シャツや靴の買い足しが抑えられた結果だろう。

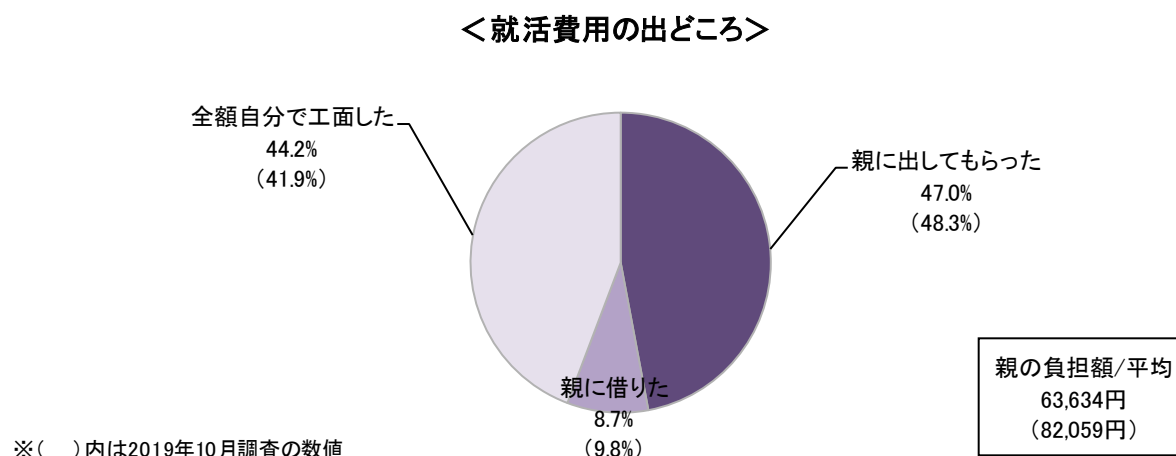
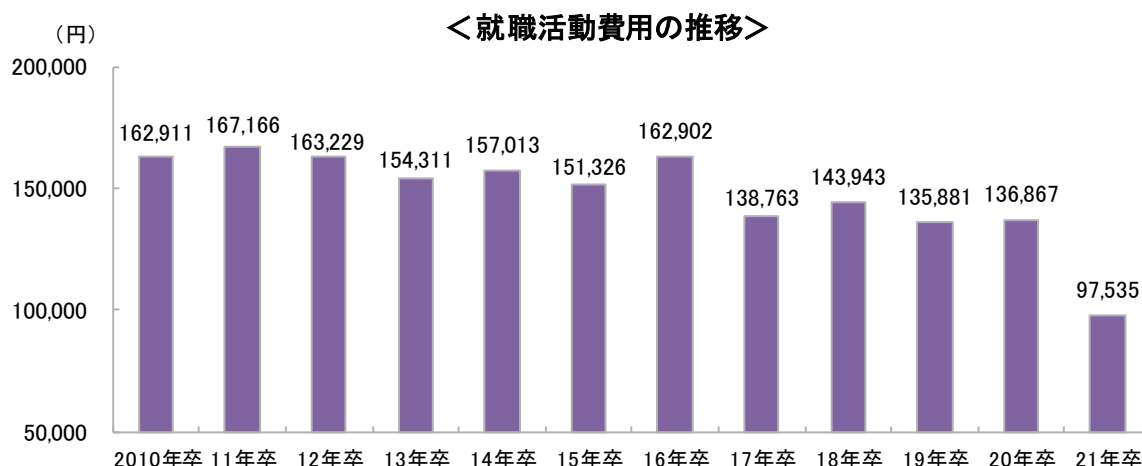
全体の費用を地域別に見ると、平均額が最も高いのが「中国・四国」で、154,286円と15万円超の出費。他に「北海道」「九州・沖縄」「中部」で10万円を超える。地方は交通費の額が多く、「中国・四国」は8万円を超え、「北海道」は6万円台に上る。コロナの感染が比較的少ない地方では、対面での活動もそれなりにあったものと見られる。全体の金額が最も低いのは「関東」(78,356円)。交通費・宿泊費の違いが合計額に大きく影響している。

就職活動費用の出どころを尋ねると(グラフは次ページ)、アルバイトなどで「全額自分で工面した」は4割強で(44.2%)、「親に出してもらった」が半数近くに上る(47.0%)。例年より格段に下がったとは言え、平均10万円近い金額は学生が数カ月間に使う額としては高額だ。コロナ禍でアルバイトができず、工面が難しかったケースもあるだろう。

<就職活動の費用(平均)>



	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
合計	149,089	90,887	78,356	101,670	98,958	154,286	117,673
リクルートスーツ代	28,489	28,855	28,924	31,619	32,314	28,883	24,591
交通費	63,644	39,351	23,576	37,344	36,286	80,264	46,398
宿泊費	22,578	6,836	1,980	8,438	7,060	21,041	21,466
資料費	7,278	3,236	5,305	4,600	5,129	4,253	4,631
備品代	7,100	9,769	9,430	12,279	10,117	5,409	10,758
有料講座受講費	16,956	1,239	5,478	4,806	6,322	11,701	9,261
その他諸経費	3,044	1,600	3,662	2,584	1,731	2,734	568



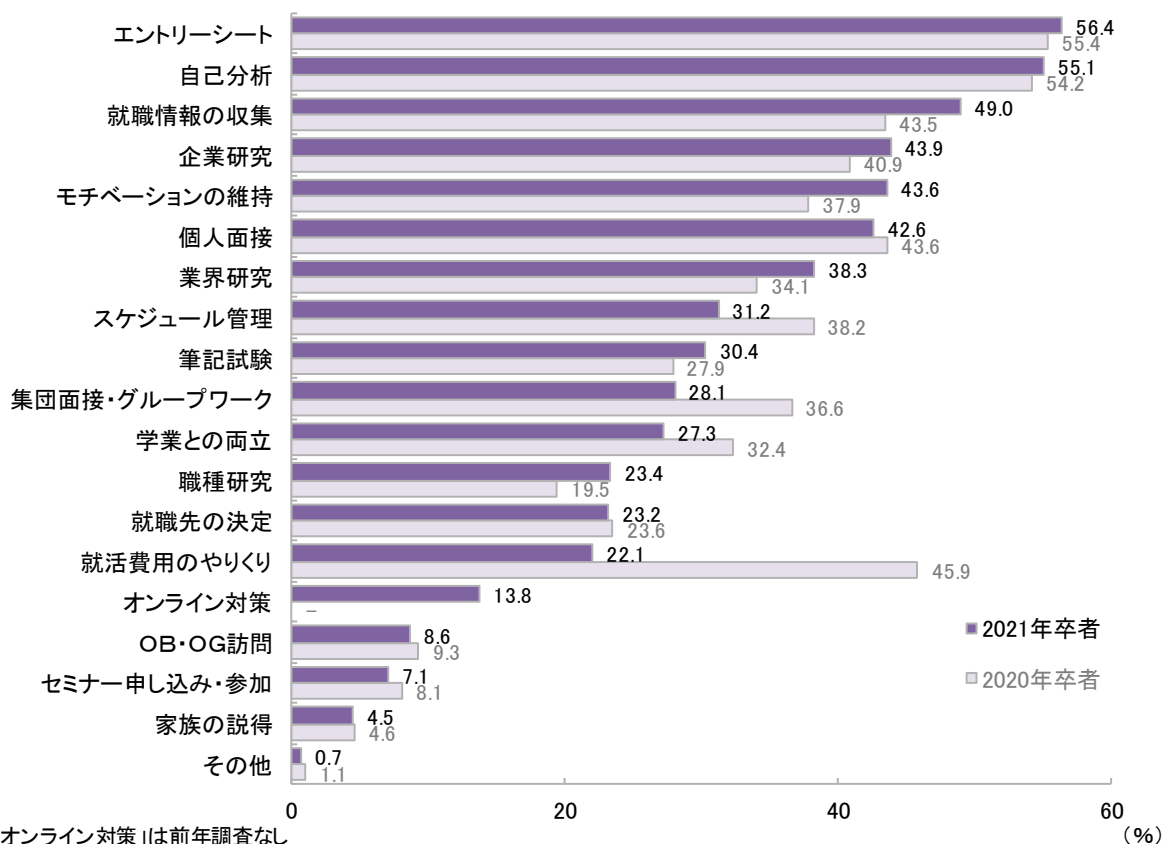
■就職活動の費用について

- 今年は、選考がほとんど WEB で進んだので、交通費や宿泊費はインターンの分くらいしかかからなかった。
<九州沖縄・男子/総額 62,000 円>
- スーツやパソコンを購入したため、出費は多かったです、これからも使う機会があるのでよかったと思います。
<関東・女子/総額 180,000 円>
- 交通費は企業から支給される場合もあったので、自腹分は 1/3 くらいだと思う。振り返ってみると想像以上に合計金額が高額で驚いた。親の支援がなかったら、就職活動の幅も狭まっていたと思うし、恵まれた環境にいたのだと感じた。
<関東・男子/総額 239,000 円>
- 4 月以降、交通費はあまりかからなくなった。緊急事態宣言でアルバイトにも入れなくなったので、正直助かる部分はあった。
<九州沖縄・女子/総額 95,000 円>
- 1 番お金がかかるはずの交通費はオンラインになってから出費がなくなったので抑えられました。スーツやカバンは大学入学の際に買っていたものを使用したので、就活のために購入することはありませんでした。
<関東・女子/総額 13,000 円>
- オンライン中心の就活になりそうだということでパソコンを新調しました。オンライン面接可能な環境づくりのためにかなりお金を使ったなと感じています。
<北海道・女子/総額 132,000 円>
- 途中からオンラインとなり、交通費をおさえられた反面、通信費が上がった気がしている。
<関東・男子/総額 144,000 円>
- 公務員講座を受講していたが、結局は民間就職を選択したので、その費用がもったいなかったなと思う。
<関西・女子/総額 220,000 円>

6. 就職活動で大変だったこと

就職活動で大変だったことをすべて選んでもらい、前年調査と比較した。1位「エントリーシート」(56.4%)、2位「自己分析」(55.1%)で、いずれも半数を超えており、今年も多くの学生が苦労したことがわかる。前年調査で3位だった「就活費用のやりくり」は半減し(45.9%→22.1%)、その他に「スケジュール管理」「集団面接・グループワーク」「学業との両立」も大きく減少した。就職活動のオンライン化が進んだことで、交通費や移動時間が縮小されるなど、学生の負担軽減に繋がったことがわかる。一方で、「就職情報の収集」「モチベーションの維持」などが上昇しており、コロナウイルス感染拡大による外出自粛の影響が感じられる。

<就職活動で大変だったこと>



■就職活動で大変だったこと

- 締め切りが同じ日にちの企業が多く、夜中までエントリーシートを考えることが多くあった。 <文系男子>
- 自己分析ができているかどうかですべてが変わってくると思った。しっかりできていると、エントリーシートも面接もスムーズだった。 <理系女子>
- コロナ禍で説明会が十分に行われなかったため、面接に不安を感じた。そこで、自身の弱みと強みを分析することに注力した。 <理系男子>
- オンラインになった分、企業の情報を集めるのが難しかったです。例年よりも企業との出会いの機会が少なかったと感じました。 <文系男子>
- 自粛期間中は、日常生活・学業・就活をすべて自室で行っていたため、気持ちの切り替えに苦労した。 <理系女子>
- コロナの影響で就活が長引いてしまい、モチベーションの維持が難しかった。 <文系女子>